



0074 倉のある暮らし

河西 猛（カサイ タケシ） 桑沢デザイン研究所



プレゼンサマリー

倉に寄り添い、倉を介した新しい関係。みんなが集まって暮らす場にひとつの倉を置く。住空間の中の収納部分を集めて中心に40坪の倉をつくる。各住戸は4坪。居住者の所有物をひとまとめにした「倉」の一部は、地域住民の倉庫としても開放されている。個人間でのものの貸し借りが少なくなっている現代において、単身者や地域住民の関わり合いを深め、昔の共同体のような依存し合う関係をつくる。コミュニティ復活のきっかけとなるように。

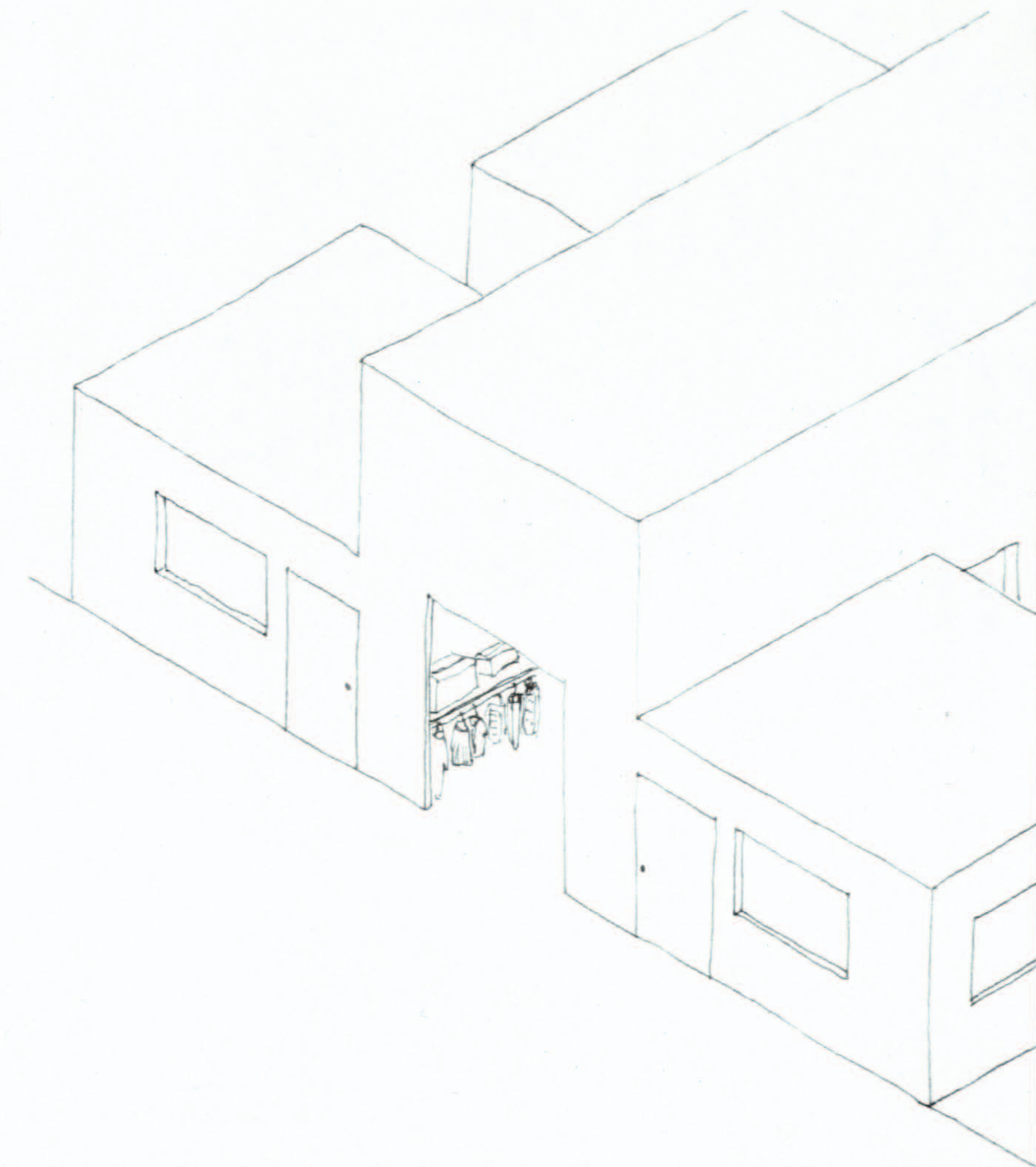
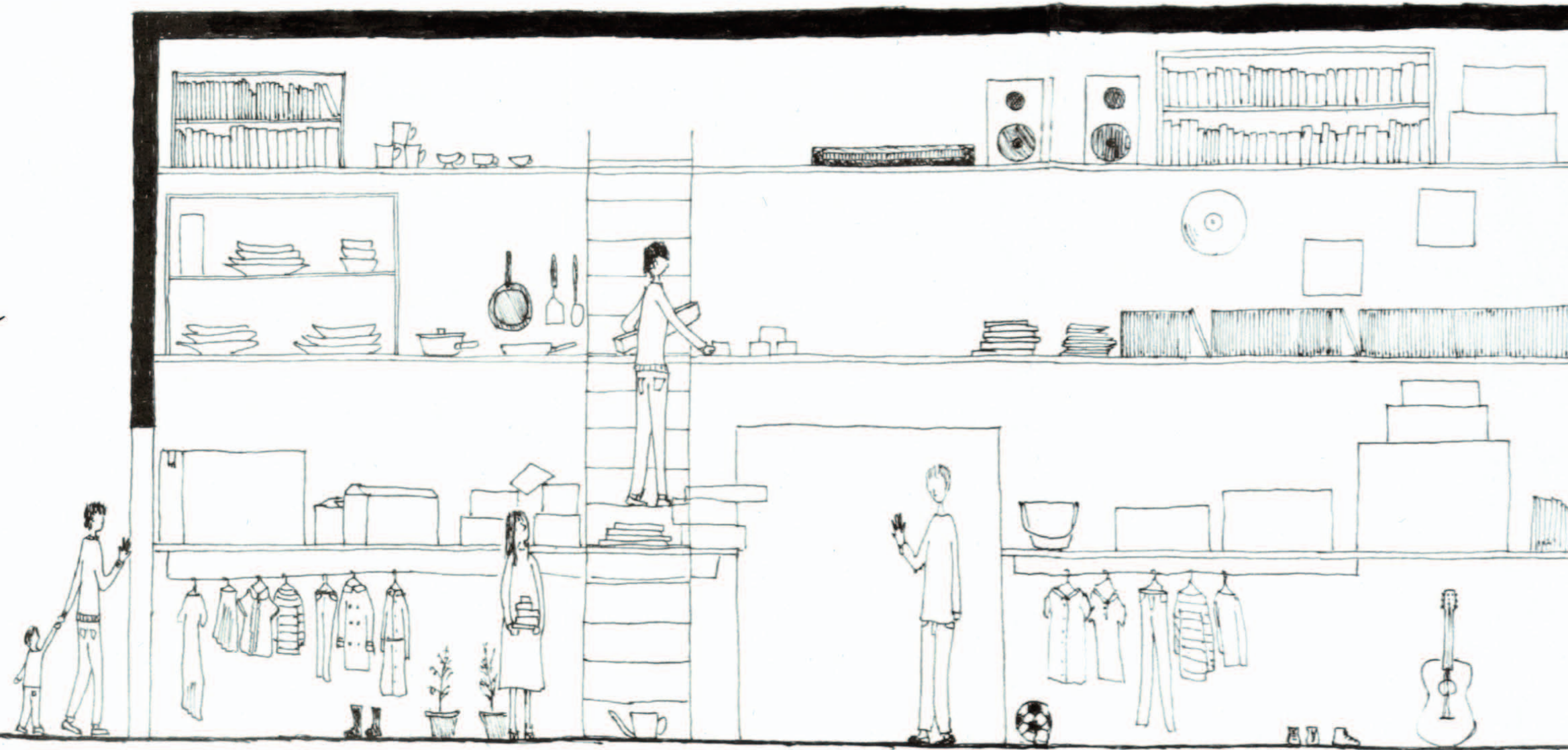
（プレゼンテーションより抜粋）

審査員コメント

- ・小さな住宅だと床面積の4割程度が収納に取られてしまう。セクションは面白いが近隣のコミュニティを活性化するといっても倉の中に近隣の人が入ってくるというのはリアリティが感じられない。
（山本理顕）
- ・6世帯合わせて40坪でよかったのか。収納に着目することでワンルームマンションの部屋自体がどう変わるかをもっと表現できればよかった。
（千葉学）
- ・収納に注目した点はよいと思う。人と人との間の貸し借りの重要性を伝えるには、もうひとつ提案が必要だろう。
（西村達志）



倉のある暮らし



倉に寄り添い、倉を介した新しい関係。

みんなが集まって暮らす場所に一つの倉を置く。
倉にはモノがすべて納められ、みんな倉を出入りしながら暮らしている。

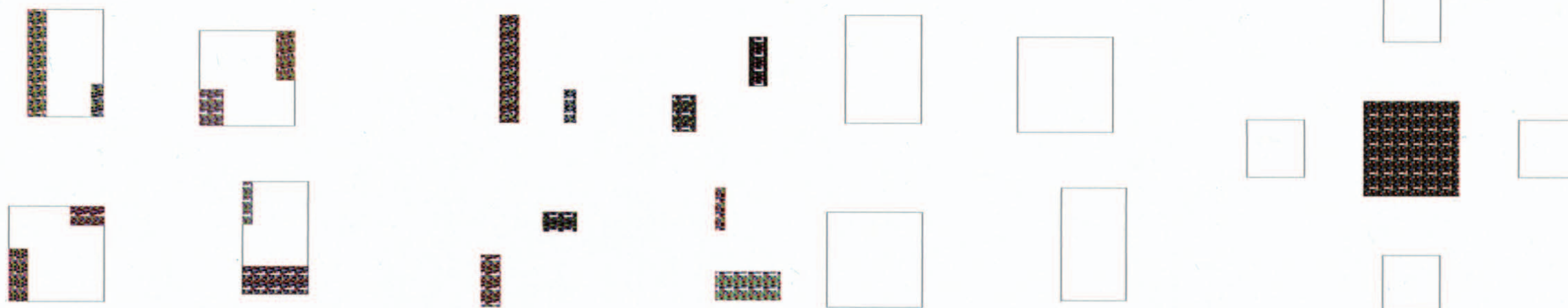
倉の中でお互いのモノを知り、みんなの趣味、趣向に触れる。
誰かが重いものを運んでいる時は運ぶ手伝いをするかもしれない。
お礼に何かモノの貸し借りが生まれることもあるはずだ。

みんながお互いを知り、時間や行為を共有する。
そして、ささやかな依存しあう関係が生まれてゆく。

この集合住宅の特徴は居住者の所有物をひとまとめにした「倉」である。
倉の一部は周辺住民のための倉庫としても開放されている。
日々、倉に出入りするなかで居住者、周辺住民たちはお互いの関係を深めていくことができる。

初対面の人同士がいきなり面と向かって話しあうことは難しい。
この生活では人と人の間にモノが緩衝材として入り込む。
そして緩衝材としてのモノが集められた場所＝倉が新しい関係を
生み出すための場となるのである。

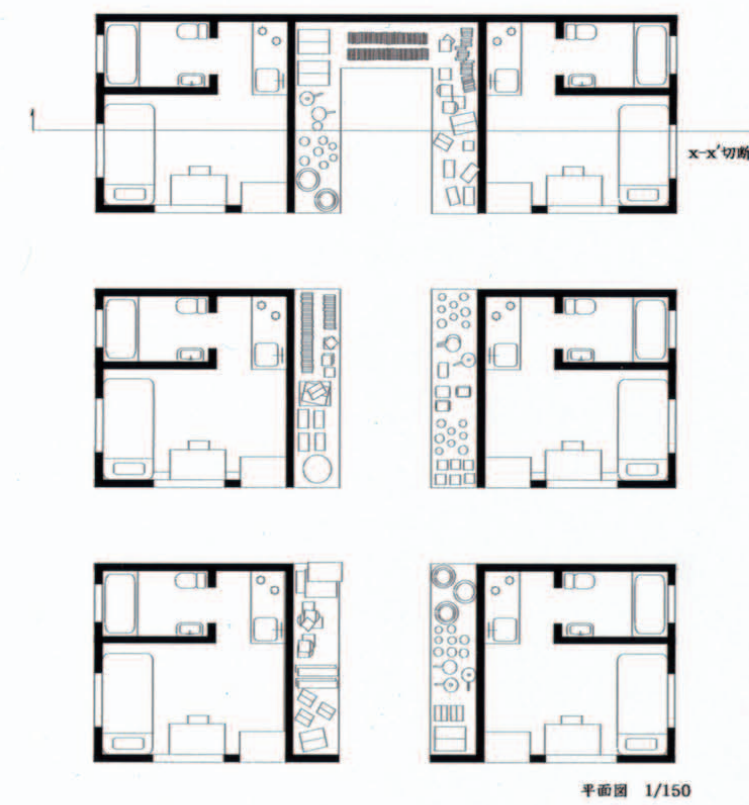
■ : 収納 □ : 住空間



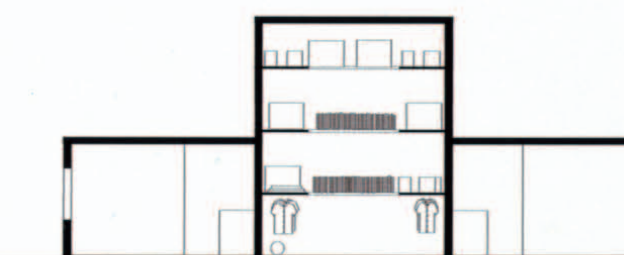
コミュニケーションの媒体としてのモノに着目し、
モノの為の領域＝収納部に対して操作を行った。

各住居に収められていた収納部と住空間を引き離す

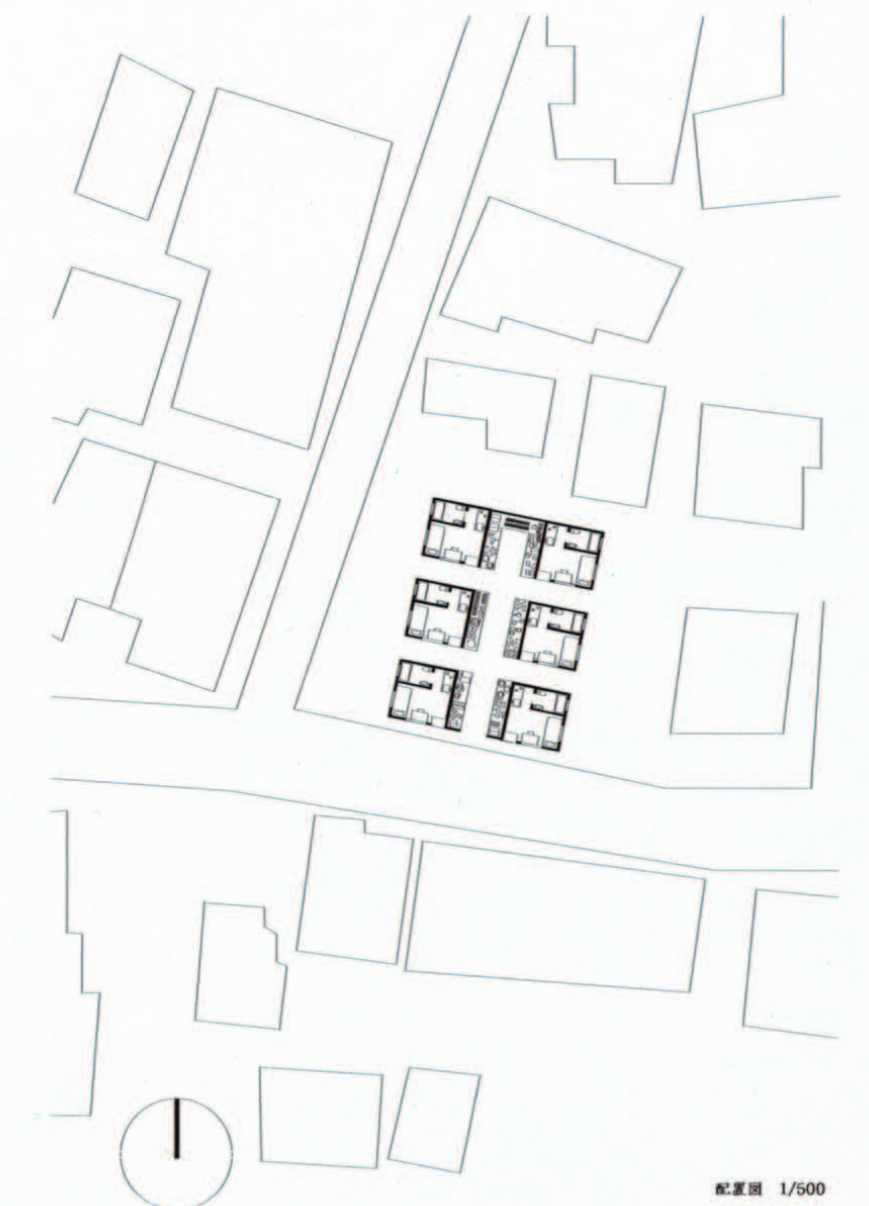
バラバラであった収納部を一つの倉にまとめ、
その周りを囲うように住人は住まう。



平面図 1/150



断面図 1/150



配置図 1/500